

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立湊中学校
-----	----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 県学習状況調査（12月）において中1では5教科中4教科で県通過率を上回った。また、2年・3年においても改善の傾向が見られる等、学力向上の取組の成果が表れた。 教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育むことができた。引き続き、いじめ防止及び早期発見と対応にも取り組んでいく。 コロナ禍のため、職場体験等キャリア教育についての体験的学習活動が実施できなかった。「自分の夢や、進路目標を持っている」と答えた生徒は、54.5%にとどまった。1人1台端末も活用する等工夫をしながら、志を高める教育を推進していきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>確かな学力・思いやりの心・逞しい体力をバランスよく身に付けた生徒の育成 ～生徒が主役「出番・役割・承認」を通して～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>(1) 授業・キャリア教育の充実によって、確かな学力を育み、生徒の進路保障を図る。 (2) 教育活動全体を通して、豊かな心を育み、生徒の人的成長を図る。 (3) 学校体育・学校保健等の充実によって健やかな体を育み、生徒の逞しい成長を図る。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師が90%以上であった。 ・学校評価アンケートで、学力向上に向けて、学習の手立てや授業の工夫に努めていると肯定的に回答した保護者が90%以上であった。	A	・授業を参観し、生徒達が大きな声で分かりやすく進行している様子が伺えた。
	○ICT等を活用した個別最適な学びを意識した授業改善	○ICT等を活用し、授業における「個別最適な学び」の手立てを行ったと回答した教員	・個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進による「主体的に学習に取り組む生徒」の育成を図る。	A	・職員研修や個々が授業での活用を意識したため、ICT等を活用し、授業における「個別最適な学び」の手立てを行ったと回答した教員が、80%以上であった。	A	タブレットを活用した授業もあり、改善されていることがわかった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒90%以上	・各学年担当で、年間計画に沿って道徳の授業を実施する。 ・道徳に関するアンケートを実施する。	A	・2月の学校評価アンケートで、肯定的な回答をした保護者は92.9%、生徒が92.5%であった。各学年で、実態に合わせた道徳の授業を実施することができた。	A	・生徒一人一人言動の捉え方が違うが、アンケート回答で90%以上の肯定的回答であったので、今後も引き続き指導をお願いしたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ●積極的生徒指導、開発的生徒指導による生徒の心の教育	○いじめ防止等(いじめの定義・いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員88%以上	・定期的に全校生徒に生活アンケートを行い、生徒の学校生活を把握する。	A	・「きょうそう便」による職員の意識改革やクラスでのSSTやGWTの実施でいじめ防止や協働的な活動を通して、いじめ防止に務めた。また、月末に行う「生活アンケート」で生徒の実態を把握し、生徒の問題を解決・軽減できるように寄り添った。アンケートでは、生徒87.5%、保護者92.9%が肯定的な回答であった。	A	・いじめは無くならないことはないと思っているが、人との関わりやしつけ等、家庭と学校両方で地道に取り組んでほしい。
	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・個人面談の実施によって、生徒の能力・適性等に応じた進路指導を充実させる。 ・高校の情報提供や職業体験等を通して、生徒の進路意識を高める。	A	・2回目のアンケート結果では79.5%の生徒が将来の夢や目標を持っていると回答し、およそ3%ポイントが上昇した。職業講話や職業調べ等により生徒の意識の高まりが見られた。しかし、教職員の意識とのずれが見られるため、その要因の分析が必要である。	A	・地域のつながりが薄くなっている。地域の行事や祭りに参加するように呼びかけてほしい。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・部活動や社会体育活動の励行 ・積極的な情報発信、関係者評価の実施、地域ネットワークの活用等により、基本的生活習慣の重要性を伝えていく。 ・自転車の整備点検、交通安全教室の実施。	A	・3年生は部活動を引退し、運動する機会が減少したため、休日に1人でできる運動を体育の授業で紹介した。 ・アンケートで朝食の喫食率が94%であった。栄養の偏りがある朝食もある今後も保健便りや給食便り等で健康的な食生活の大切さを発信する。 ・生徒の安全・安心のためにいろいろな場面での避難や回避について訓練を行った。「学校便り」に掲載し、保護者に対しても、防犯対策について促した。	A	・体力づくりのためにも、部活動に積極的に参加してほしい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○部活動従事の負担軽減 ○年休の取得の促進	・定時退勤日を水曜日に設定する。 ・部活動休養日を原則水曜日とする。 ・部活動の複数顧問により、指導の負担を軽減する。 ・管理職が年休取得を推進するとともに、声かけを行う。	A	・定時退勤日、部活動休養日はほぼ達成できた。 ・部活動の負担軽減については、部によって偏りがあつたので次年度の課題としたい。 ・業務改善に取り組み、年休取得や時間外勤務時間の削減ができていると回答している職員は81.8%であった。	A	・先生方の大変さがわかるので、働き方の工夫に期待する。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
○誰にでも居場所のある学校	○すべての生徒が安らぎを感じ、誰にでも居場所のある安全で安心な学校	○「学校は楽しい」と答える生徒が80%以上	・生徒会や生徒指導等、自ら考え、自ら行動できる生徒の育成をする。 ・学校行事等、一人一人が活躍できる場を設定する。	A	・第2回アンケートでも肯定的評価が87.5%と高い水準であった。引き続き、生徒会を中心として、誰一人取り残さず、一人一人が活躍できる場面をつくり、安心・安全な学校づくりを目指す。	A	・生徒に自信を持たせる指導、登下校の姿を見ると、学校の効果的な指導が見えている。 ・生徒の少ない学校だからこそ出来ることもあるので、挑戦してほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全体を通して、生徒の豊かな心の育成に努めた。引き続き、いじめ防止及び不登校対策のための早期発見と早期対応を行う。 どの教科の学習においても、生徒が互いに考えを共有し、より良い考えを高めたり、考えを広めようとする活動を行った。今後も継続し、協働的学びが「深い学び」となるよう、各教科の「見方・考え方」を意識した指導を行う。 タブレット端末の更なる活用について、職員研修や授業実践を行い、学力向上のための効果的な活用について実践する。 キャリア教育のために職業講話や職業体験学習を行った。これらの体験をもとに、生徒達が夢や目標をもって何事も取り組み、自己実現のための学力向上やスキルを身につけさせる。
--------------------	---